

発表題目：デジタル時代における持続可能な生業戦略の解明
—ベトナム・メコンデルタのエビ養殖者による情報交換を事例に—

所属： 京都大学大学院・アジア・アフリカ地域研究研究科

氏名： 皆木香渚子

1200 字程度で発表内容を記載してください。

I.はじめに 近年急速に進展するデジタル化により、南側諸国の農業分野では、ソーシャルメディア上での情報交換が草の根レベルの新たな課題解決手段として積極的に行われている。本研究では通信技術・費用面での障壁が少ないベトナムにおいて、小規模エビ養殖者によるデジタル空間での情報交換に着目する。エビ養殖業は経済効果をもたらした一方、エビの感染症の蔓延、国際市場の価格変動に対する脆弱性、気候変動に伴う養殖環境の悪化等、経済的環境的なリスクへの対策が喫緊の課題である。ベトナムでのエビの主な生産主体である小規模養殖者が、デジタル空間に創出されたネットワークをどのように利用してリスクを吸収しているのかを、彼らの SNS を介した情報交換の実態を分析し、考察した。

II.調査方法 ベトナムで最も利用者人口が多い SNS である Facebook を分析対象とした。Facebook のサイト内で「エビ養殖 (nuôi tôm)」と検索し、ヒットした複数のグループの中から、養殖エビの生産量の上位 3 省であるカマウ省、バックリエウ省、ソクチャン省の省名がグループ名に入っており、参加者人数が最多のグループの投稿内容とコメントを取得した。その中から、「いいね」の件数が毎月上位 10 位までの投稿、全 1088 件を抽出し、その内容を分析した。また、各グループの管理者にグループ設立の経緯についてオンラインおよび訪問面接型聞き取り調査を実施した。

III.結果 投稿の内容に従うと、養殖資材の宣伝、エビの取引、養殖技術の共有、意見交換、求人 の 5 つに分類ができ、さらに情報の流れに従うと、以下の 3 種類に分類することができた。「フィードバック型」の情報の流れが養殖資材の宣伝とエビの取引に関する投稿で確認できた。企業による養殖資材の宣伝に対して、品質や使い勝手などの情報がフィードバックされていた。また、仲買人による取引条件を比較することができるだけでなく、コメント機能を用いて取引条件を交渉するケースも見られた。養殖技術の共有、意見の投稿は「多方向型」に分類できた。気象変化に応じた適切な養殖池の管理方法やコロナ禍での国際的なエビ需要の変動についての情報が地域を越えて幅広く共有され、Facebook 利用者は、自分自身が直面するリスクや生産条件に応じた情報を取捨選択することが可能であった。「外部拡散型」の情報の流れは求人の投稿に顕著であった。メコンデルタ内外の水産加工会社もしくは養殖者による養殖池の季節労働者を求める投稿は Facebook グループ外に「シェア」される件数が多く、その結果、Facebook 利用者は、ベトナム中南部という広域での求人情報を得ることが可能となっていた。

IV.考察・結論 メコンデルタのエビ養殖者にとって SNS の利用は、従来のような政府による一元的・地域限定的な情報だけでなく、個別の世帯レベルで必要とされる情報へのアクセスを可能とした。このことが、小規模生産者が多数を占めるエビ養殖業にとって、世帯レベルでのリスク軽減に貢献していると考えられる。